

かつしか区民連合 区議会レポート

【発行】 かつしか区民連合

【区議会控室】 〒124-0012 東京都葛飾区立石 5-13-1

電話 03-3695-1111 (代) F A X 03-3697-0137

2025年 春号

◆ 新年度を迎えて ◆

◆日頃よりかつしか区民連合の活動にご理解・ご声援をいただき、感謝申し上げます。◆新年度になり、新しい生活を迎えられている方も多いかと思いますが、新たな飛躍の年となることをご祈念申し上げます。

■令和7年11月区議会任期満了へ■

◆葛飾区議会は今年11月に4年間の任期の満了を迎

えます。◆残された期間もわずかですが、今任期での活動の集大成となるように、引き続き地域課題の解決に取り組み、誰一人取り残さない、持続可能な社会の実現に向けて邁進してまいりますので、改めてご期待を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■令和7年度予算要望書提出■

◆昨年10月22日にかつしか区民連合として、青木かつのり区長に対して令和7年度予算要望書を提出しました。◆行財政改革・防災対策・文化振興・産業振興・福祉施策・子育て支援・教育環境整備・環境対策・街づくりなど区政全般に対し予算編成への要望と政策提言をしました。◆今後も各要望事項の進捗を見据えながら、地域や各現場の課題解決を目指し、より良い社会を実現するために尽力してまいります。



青木区長に要望書を手渡す区民連合

かつしか区民連合

6名の所属議員を紹介いたします



米山真吾

【幹事長】 新小岩地域
総務委員会 委員
議会運営委員会 理事
都市基盤整備特別委員会



かわごえ誠一

【副幹事長】 立石地域
保健福祉委員会 委員
議会運営委員会 委員
危機管理対策特別委員会



大高拓

東四つ木地域
文教委員会 副委員長
危機管理対策特別委員会



うてな英明

堀切地域
建設環境委員会 委員長
都市基盤整備特別委員会



中村けいこ

青戸地域
建設環境委員会 委員
区民サービス向上対策特別委員会



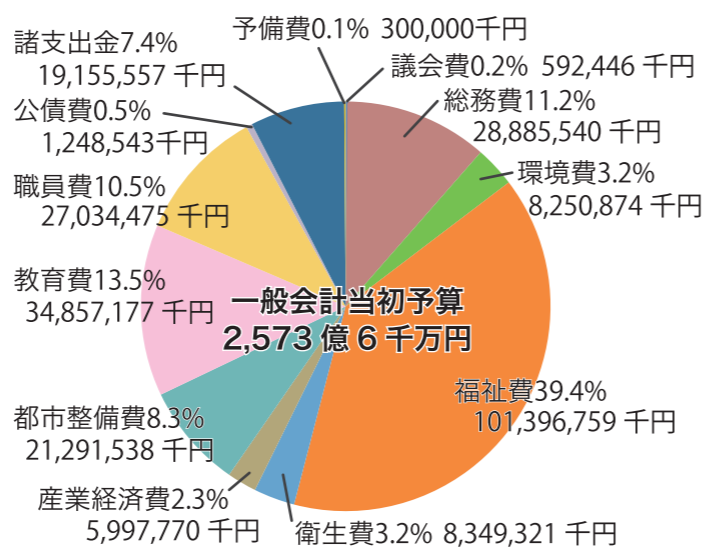
門脇翔平

金町地域
文教委員会 委員
区民サービス向上対策特別委員会

◆ 令和7年葛飾区議会第一回定例会報告 ◆

令和7年度一般会計当初予算 2,573億6,000万円議決

◆第一回定例会では過去最大規模となる令和7年度一般会計予算2,573億6千万円が上程され、予算審査特別委員会で審議された後、3月27日の最終本会議で成立しました。◆昨年に続く過去最大規模の予算とはいえ、歳出面では物価高騰の影響による事業費の増加傾向や、扶助費の高水準での推移など、今後も楽観的な見通しばかりできない状況です。◆予算審査特別委員会では区民連合各委員から、より効率的な行財政運営や、政策決定の透明性の確保を求めるとともに、将来を見据えた子育て支援、各地のまちづくりなど各方面での充実を求めました。



◆ 区議会議員協議会開催・決議文議決 ◆

◆第一回定例会の会期末が迫る3月25日(火)に区議会議員協議会(全員協議会)が招集され、本会議場で開催されました。◆冒頭、区理事者から「バルサアカデミー葛飾校への対応について」の経緯が報告されました。◆平成23年にプロサッカークラブオフィシャルスクールの誘致の動きがあり、その時点での区の関わりから、旧運営法人の不明瞭な交際費の支出や、区に連絡がない中での事業譲渡などについて各会派、議員から質問がされました。◆今回の全員協議会においても、全容が解明されたとは言えず、事業譲渡された運営法人へのグラウンドの優先利用の正当性についても疑問が投げかけられました。

■最終本会議において決議文議決■

◆その後、翌日3月26日(水)の議会運営委員会において決議文が提案され、3月27日(木)の最終本会議において「バルサアカデミー葛飾校運営法人へのグラウンド優先利用に反対する決議」が全会一致で議決されました。◆決議の概要については以下の通りです。◆「区議会は区のスポーツ振興において透明性と公正を重視しており、旧運営法人による不透明な経営に関して全容解明がなされないままでの新運営法人へのグラウンドの優先利用について反対する。区長が先頭に立ち調査をすることを強く求める」◆今後、議会としても全容解明を追求してまいります。



うてな英明

令和6年第三回定例会 区政一般質問
令和7年第一回定例会 区政一般質問

■選択される自治体について

うてな：足立区では、給付型奨学金が設けられており、区が後押ししているというメッセージは感じ取ることができる。給付型奨学金は「方法の一つ」であると考えますが、それ『だけ』にこだわらず、条件によっては返済の免除をするなど、他にも後押しできる方法を様々な角度から検討していくべきだ。

答弁：自らの夢の実現に向けて義務教育終了後も歩みを進める子ども達に対する支援策を検討していくことは、大変重要であると認識する。国や都の動向も注視しながら、子ども達への支援策を検討していく。

■教育環境の充実について

うてな：配布されたタブレットからSOSを発信する仕組みを作っていくべきだ。また、受け取った側の初動体制も重要だ。外部人材や団体・企業などの活用も検討していくべきだ。

答弁：子どもが自身のタブレット端末から直接相談窓口でSOSを発信できる仕組みを整備することは非常に有効と考えている。外部人材や団体・企業による受け手の活用については、他自治体の事例も参考に検討する。



大高 拓

令和7年第一回定例会 予算審査総括質疑
区議会議員協議会（全員協議会）

■基金と学校改築について

大高：教育施設整備積立基金は令和6年度末残高が493億2600万円から令和10年度末には143億2700万円へと目減りが想定される。要因は当初計画に無かった2施設の温水プール建設の合計75億8600万円だ。このままでは学校改築や特別区債の発行抑制に影響がでるため基金（貯金）と起債（借入）、一般財源（税金）をバランスよく執行せよ。

大高：学校改築には必要な経費として、小・中学校で残り54校×75億円（1校当たり）で、ざっと約4千億円以上の概算経費が必要になる。学校ブロックごとに施設改築計画の策定に着手し、人口動態等からタイムラインと予算規模を示せ。

大高：普通財産である旧学校施設等の点検と改修・改築計画を進めよ。

■バルサアカデミー葛飾校の対応について

大高：この1年、文教委員会で議論を重ねてきたキッズチャレンジ未来の不祥事だが、それによりバルサアカデミー葛飾校運営法人との「協定は締結はしない」という判断は評価する。しかし、協定が無い上での法人への6か月間のグランド優先使用は、区民やサッカー協会等から理解が得られず認められない。

※最終本会議で議会の総意としても断固反対の決議が示された。同時に早急に譲渡契約書を開示せよ。



門脇 翔平

令和6年第四回定例会 区政一般質問

■金町駅周辺のまちづくり

門脇：金町駅南口駅前広場周辺はラッシュ時の交通整理をするべき。
答弁：深めていく。（定例会後に警察が交通整理実施）

その他：◎バスやタクシーなどの公共交通機関が通行している地点を中心にビッグデータの活用を含めた将来への対策◎民間施設の駐輪場を利用者以外が使っている課題◎マンションの配達ドライバー荷捌き場◎バス乗り場を分かりやすくQRコードで表示など。

答弁：進めていく。

■学力向上と進学支援

門脇：学力テストが令和以降1度も全国平均すら超えていない。全国的な実例の研究・情報交換をすべき。子どもの一年は重い。合理的な目標設定と具体策を急いで。

答弁：深めていく。

■資金・人の支援（広報・デジタル）

門脇：子育て世帯・事業者を含めて葛飾区の多岐にわたる支援は、区民目線での情報発信を強めるとともに、最終的にはプッシュ型で必要な方へ自動で情報が届くことを目指してはいかか？

答弁：進めていく。



かわごえ誠一

令和7年第一回定例会 区政一般質問

■環境行政とネイチャーポジティブについて

かわごえ：カーボンハーフの目標となる2030年まで残り5年となるが、達成への見通しについて伺う。

答弁：エコ助成金の拡充の他、区有施設への太陽光発電設備の設置、建築物のZEB化、再エネ電力への切り替えなど、脱炭素を進め2030年にカーボンハーフを達成する。

他：生物多様性・みどりフェアなど

■多文化共生について

かわごえ：昨年、区の人口が47万人を超えたとされるが、人口増のほとんどを外国人が占めている。外国人住民の実態を調査して、区として課題を分析し、方向性を示すべき。

答弁：住民登録された外国人は区の人口の6%を超える。実態把握を行い課題分析し、課題解決に向け方向性を示していく。

他：子育て・教育の多文化理解など

■立石のまちづくりについて

かわごえ：駅前が変わりゆく今、記憶を次の世代に伝えるために、立石の歴史・文化の資料の保存や展示を計画的に進める必要がある。

答弁：地域の資料収集や展示は街並みの記録を次の世代に伝えるために有効な手段である。関係団体などと連携し検討していく。

他：道路の活用・学校改築・交通など



中村けいこ

令和6年第三回定例会 区政一般質問

■お花茶屋地区に計画されている屋内温水プール整備について

中村：限られた敷地で屋上緑化や壁面緑化が重要。立体都市公園制度に基づき屋上部に住民が利用できる開放型スペースを設置してはどうか。

答弁：屋上については、太陽光パネルの設置や緑化を検討中。地域に開かれた施設となるよう、緑化空間整備を敷地全体で進める予定。

中村：建物のZEB化に当たり、ペロプスカイト太陽電池や、路面などに設置する舗装型太陽光パネルを取り入れるべきではないか。

答弁：様々な技術を注視しながら、より高効率な空調、照明機器の選定などについても検討し、建物が消費するエネルギーの削減を図っていく。

他：被災後の復旧対応施設について

■自然体験などを通した子どもの健全育成活動について

中村：子どもの体験格差が問題とされている。自然体験やスカウト活動、少年野球・少年サッカー等に参加できるようなバウチャーが有益であると考え。

答弁：団体や個人への新たな支援の在り方については、バウチャーについても検討すべき課題が多いため、先進自治体の事例研究をしていく。



米山 真吾

令和7年第一回定例会 代表質問

■人口ビジョンと地域共生について

米山：都が進める住宅支援ファンドと連携し定住化の促進に取り組むべき。
答弁：動向を注視しつつ、連携も意識しながら取り組んでいく。

■公契約条例の今後の取組について

米山：労働者・事業者・行政の三者が意見交換できる場の設置をすべき。
答弁：三者が意見交換できる場を設置し、検討を進めていく。

■新金線旅客化について

米山：新金線旅客化の現状や今後の考えを新聞を通じて伝えるべき。
答弁：新聞などのメディアも含め、広く区民へ発信し取り組む。

■スタジアム構想について

米山：基礎調査の結果を踏まえ、今後どのような考えで検討するのか。
答弁：都市公園本来の機能にも配慮しながら、公園やスタジアムその他整備について整理し検討を進める。

■建築物の耐震化について

米山：部分改修、段階的改修、耐震シェルター助成の拡充が必要だ。
答弁：耐震シェルター設置を促進し、助成限度額を引き上げる。部分改修及び段階的改修は引き続き調査研究を行う。

■新小岩地域のまちづくりについて

米山：新小岩1丁目について整備地域の継続を都に働きかけをすべき。
答弁：整備地域から除外せず、防災性向上の取組を継続できるよう東京都と協議を行う。